

令和4年度 いのちの授業 事例集（中学校）【特別活動】

掲載数

59

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中複合	特別活動	人権教育 「みんなが幸せに生きるとは？」	11月20日が「かわさき子どもの権利の日」であることを契機に、資料冊子を活用しながら、①安心して生きる権利②ありのままの自分である権利③自分を守り、守られる権利④自分を豊かにし、力づけられる権利⑤自分で決める権利⑥参加する権利⑦個別の必要に応じて支援を受ける権利等についての考えを深めることができた。また、クイズ形式の生徒主体の活動を通して、自分自身で状況を想定し判断する力を育てていく良い機会となった。	・中学生・高校生版 「子どもの権利学習」 資料2022年度版 ＜わたしもあなたも輝いて＞ ・クイズ形式の質疑応答
2 川崎市	中複合	特別活動	自殺予防	川崎市で取り組んだ「SOSの出し方、受け止め方教育」を学校内の実態を踏まえて、アレンジした。 誰かに話すときのポイントや身近な相談できる人について考えた。	ストレスとその解消法 (中学生/高校生編)
3 川崎市	中1	特別活動	SOSの出し方、受け止め方	かわさき共生*共育プログラムの一環として授業を行った。それまでの面談等で「友達や先生に悩みを相談できない」ことや「クラスの友達から相談を受けたことがある」ことなどがあがっていた。授業中での自分の悩みを表現する活動では、積極的に自分の心を言葉にしようとする姿勢が見られた。授業の振り返りでは、自分を守るために気楽に相談していいことや友達の悩みを聞いてあげることがとても重要だという感想やレジリエンスを増やしていきたいという思いが出てきた。一方で、大人を頼ることが正しいのかといった疑問もあがってきた。	川崎市SOSの出し方・受け止め方教育の資料をもとに、3年生も同じ日に授業を行った。
4 川崎市	中2	特別活動	自殺予防教室	川崎市版「SOSの出し方に関する教育」プログラム作成に向けて、自殺予防に資する援助希求的態度の育成をテーマに検証授業を行った。授業は、3時間に分けて実施し、「ストレスを感じた心身の状態に気付き、ストレスの対処法を増やす」「相談には、良さのためらいがあることに気付き、相手の状況や気持ちを想像して、相談しやすい聴き方を実践する」「SOSを出せる人や場所はどこにあるのかを考える」ということにそれぞれ主眼を置いて、グループワークやロールプレイング等を行った。授業を通して自分に合ったストレスの対処法を考えたり、傾聴することの大切さを再確認した生徒の姿が随所で見受けられた。	センターの検証授業として、教育相談の指導主事、研究員からも丁寧なアドバイス等をうけた。
5 川崎市	中複合	特別活動	川崎市SOSの出し方、受け止め方教育	川崎市教育委員会の作成した、SOSの出し方、受け止め方教育について、レジリエンスや周囲へのSOSへの出し方について指導した。また、自身の命を大事にすることについて生徒一人ひとりに考える機会を作った。	全学年で実施

6	川崎市	中複合	特別活動	SOSの出し方・受け止め方教室	川崎市教育委員会のプログラムに沿って、事前に本授業に向けて9月に全市生徒指導担当を対象とした高橋聡美氏による講演研修、10月に校内職員研修、11月に全校生徒一斉に「SOSの出し方・受け止め方教室」を実施した。事前に保護者へも周知し、本校では、保護者を対象とした学校公開日に授業を行った。内容は、悩み事や我慢していることをそのままにせず、友人や大人に相談すること、相談にのることの意義と「レジリエンス」高めるための手立てを教育委員会が作成した動画等を利用して行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が各クラスにおいて授業を実施 ・教育委員会作成の視聴覚資料 ・生徒用PC
7	川崎市	中複合	特別活動	ストレスと上手に付き合うために～コーピングについて～	臨床心理士を招いて、過剰なストレスへの対処法を学習することにより、心の健康を保持することを目的として実施した。内容としては、GIGA PCを活用した臨床心理士によるオンライン講演形式で行った。ストレスとは？から始まり、複数の「コーピング」というストレス対処法を学習した。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が各クラスにおいて授業を実施 ・臨床心理士作成の視聴覚資料 ・生徒用PC
8	相模原市	中2	特別活動	思春期出前講座「命のはなし」	事前アンケートで、思春期のこと（心と体の変化等）を考えさせた。 自分の成り立ちを知り、命の大切さを再認識した。また、自己肯定感を育てることが大切であることを意識させた。 思春期の身体的精神的特徴や性に対する正しい知識を得て、自分も他人も大切にすることを確認した。	緑子育て支援センター 保健師
9	相模原市	中1	特別活動	性に関する指導「性ってなんだろう？」	中学生の時期は心と体が大きく変化し、その変化に戸惑ったり悩んだりすることが増える。2学期に保健体育科で体の変化について学ぶのをきっかけに、性に関する指導が始まることから、「性とは何か」という原点を学ぶ時間を確保し、体の変化だけでなく、心の変化やジェンダー平等、多様な性についても触れている。生徒は、初めて聞いた話が多かったためか、関心を持って聞いたり、周りとの意見を交換したりする様子が見られた他、性に対するイメージやとらえ方を考え直す姿もあった。	講師は、県内に勤務する助産師。 (参考資料) 文科省「生命の安全教育」
10	相模原市	中2	特別活動	思春期	保健師による講話 <ul style="list-style-type: none"> ・命の始まり、つながりについて ・思春期のこころとからだの変化 ・思春期を過ごす時のアドバイス 	南保健福祉センターの保健師
11	相模原市	中複合	特別活動	集団下校訓練	災害及び周辺地域における重大事件による影響が予想される事態に対し、全校生徒が身の安全を確保しながら速やかに集団下校できるよう、訓練を実施した。集合前に、学級において、集団下校が行われる条件、避難場所、避難方法、注意点などを指導した。その後、グラウンドに地区ごとに集合し、点呼を行い、教員が先導してそれぞれの地区まで集団下校させた。下校時、通学路の危険箇所を確認するなど、いざというときのための心構えが生徒に醸成され、自分の身は自分で守るという意識が向上した。	実施は全校で一斉に行った。
12	相模原市	中3	特別活動	エイズ・性感染症予防	性感染症が急増している昨今、自分自身や大切な人を守る為に、正しい知識を付けると共に、性行動に費えも考えさせる。	助産師さんによる講演。

13	相模原市	中2	特別活動	健康講座	各学期、各学年において、「健康講座・性に関する指導」を計画している。その中の1つとして、2学年において「命のはなし」をテーマ（思春期出前講座）に実施した。受精卵から成長し、母親のおなかから生まれたときの様子の話を聴き、あかちゃん人形を使って大きさと重さを体験した。思春期の心や身体の変化について聴き、自分を大切にすること、他人を大切にすることを学ぶことができた。	講師：相模原市こども・若者未来局 緑子育て支援センター保健師
14	横須賀市	中2	特別活動	ライフボード	グループエンカウンターの手法を利用して、船が沈没しそうなときに、ライフボードに6人中4人しか乗ることができない。それを選び、理由を話し合うことを通して。生命の尊さを考えさせる授業です。□	グループエンカウンター
15	横須賀市	中3	特別活動	薬物防止講演会	体育の授業で薬物を使用することでの身体への影響、依存してしまう恐ろしさなどを学んだうえで講演会に参加した。講演会では実際に薬物依存症に陥ってしまった人の話を聞いた。その方の最初の使用から治療期間の間の話。その方の人生を知り、改めて一度でも使用してしまうとやめることができない難しさを知った。授業、実際の話聞き薬物に対してどのような行動をとっていくべきか考えた。	講師：横浜ダルクケアセンター
16	横須賀市	中2	特別活動	防災教育「小中合同防災訓練・引き取り訓練」	小中合同での引き取り訓練を実施した。5・6時間目を使い、各校で防災教育を行った。内容は震災にあった時の様子や、避難所生活、どうやって避難することが自分たちの命を守るために必要かを考えた。その後、小学校から順に生徒を保護者に引き取り、中学校の生徒の引き取りも行った。保護者が都合で引き取りが行えない生徒は、各自治体ごとに集合し集団下校を行い、その際に各自治体の防災倉庫の位置を確かめた。	各自治体の自治会長、小中全学年
17	湘南三浦	中1	特別活動	いのちの教室	前半は助産師さんの講演で、紙に開けた穴でいのちの始まりの大きさを確認し、大小さまざまな胎児人形を生徒へ回すなど、体験型の講演会を実施した。後半は、保健師さんの講演で、事前アンケートについての話や、自分と相手の考え方は違うということ、レジリエンスについて触れた。また、悩んだ時に相談する大切さについても、生徒に考えさせることができた。	鎌倉市役所市民健康課保健師・助産師
18	湘南三浦	中2	特別活動	いのちの教室	～思春期のこころと性～をテーマに、思春期のからだの変化・こころの変化・思春期とのつきあいかたなどを知ることを目的に講演を実施。途中、事前アンケートに絡めながらの回答も行った。また、からだの変化の際は「男子だから、女子だからではなく、お互いの体の変化を知ってもらいたい」と生徒たちに語りかけた。さらにプライベートゾーンやLGBTQの話題にも触れ、生徒たちが多角的なものの見方ができるよう配慮し、広い意味での「いのち」について考えさせることができた。	鎌倉市役所市民健康課保健師
19	湘南三浦	中1	特別活動	いのちの教室	大きな柱は思春期のこころと身体の変化や成長について学び、いのちの尊さを知り、自分や他の人を大切にすること。思春期には不安になったり、イライラすることが誰でもあることを知り、また成長には個人差があることを示していただき安心した生徒も多くいた。不安や悩みがあるときは大人の人に相談することが重要であること。具体的な相談機関の紹介もあり、不安に思っていることが解決でき、今できること大切にすること（睡眠、食事、運動）を伝えていただいた。	鎌倉市役所市民健康課保健師・助産師

20	湘南三浦	中 2	特別活動	いのちの教室	1年のときにコロナでいのちの教室ができなかったので、1年の内容に加え、・人によって、考えや思いがそれぞれ違うこと、・身体の性以外にいろいろな性があり、多様性を大切にしよう、など、いのちの大切さや親への感謝などたくさんのことを考え、感じる事ができた。	鎌倉市役所市民健康課 保健師・助産師
21	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「命を守るために不必要なこと」	地震が起きた時に、身を守るための行動について考えさせた。どのようなものが教室の中で危険なものになるのか、また校内の写真を見て、どういう状況が危ないかなどを生徒は話し合いの中で確認していた。また実際に机の下に潜る際、生徒によっては体が机からはみ出してしまうが、最も守るべきなのは頭であることを伝えた。火事の際は、煙を吸わないことがなぜ一番大切なのかをプリントで確認することで、ハンカチで口鼻を押さえることの重要性を理解していた。	校内の写真
22	湘南三浦	中 2	特別活動	SOSの出し方教育	藤沢市健康づくり課と保健予防課の保健師の方を講師として、ストレスやストレスの対処法についてお話をいただいた。講義の後は、ストレスは悪いものだという印象があったが、「適度のストレスはやる気や集中力を高めてくれるということを初めて知った」という感想や、「自分がつらい気持ちになった時に、それを軽くするために自分ができる方法や、自分に合った方法を知っていることが大切だと思った」など、生徒にとって普段の自分を振り返ったり、自分と向き合う機会になった。	講師：藤沢市健康づくり課保健師・保健予防課保健師
23	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「神奈川SHAKE OUT」	全校生徒一斉に、地震を想定したSHAKE OUT訓練を行った。いつ、どこで地震が発生したとしても、初期動作を確実に身に付け、自分のいのちを自分で守る行動が取れるよう毎年実施しており、今年度も訓練の前に、プリントを使って頭を守る姿勢、危険を避ける場所等の確認をした。	・各クラス担任が授業をした。 ・事前のプリントは防災担当から配られた。
24	県央	中 3	特別活動	命の尊さ、性感染症予防	病院で働く助産師から、実際の医療現場から見える「命の尊さ」について話してもらった。中学生にとっては自身が誕生してから親に大切に育ててもらったこと、これから親になったときに誕生した命を大切にしていかなければならないことを学んだ。また、性感染症の特徴と感染経路を知り、その予防について学んだ。	講師は助産師
25	県央	中複合	特別活動	防災教育	本校では災害時に命を守るためにどのようにすべきかを考え、学ぶために防災教育を行っている。今年は避難訓練を実施後、宝塚市消防本部が制作した「教養型防災訓練 火事 避難編」を視聴しながら、火災時に命を守る避難方法を学びながら、実際に想定しながら考えさせ、防災意識の向上につなげられるようにした。	全学年
26	県央	中 1	特別活動	自分を大切にしよう～ストレス対処～	生活の中で感じるストレスの概要について学び、生徒の間でストレスを感じてつらい気持ちになってしまったときにどのように対処しているかを伝え合うことで対処方法の幅を広げた。今後に向けてSOSの出し方、友達の相談に乗ったときの対応などの援助希求行動について考えた。	学級担任による授業 (参考資料) 東京都教育委員会指導資料「SOSの出し方教育」

27	県央	中2	特別活動	大切な体と心を守るために～よりよい関係をつくろう～	性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするため、自分と相手を守る体と心の「距離感」、性暴力とは何か（デートDV、SNSを通じた被害の例示）、性暴力被害にあった場合の対応等の知識を学んだ。よりよい人間関係について、自分と相手を大切にすることや「嫌なことは嫌」と伝えることの大切さを感じた生徒が多くいた。また事例を通して、SNSの使い方を気をつけたいという考えを見出した生徒もいた。	学級担任による授業 (参考資料) 文部科学省「生命の安全教育」
28	県央	中複合	特別活動	人間関係づくり	個性を認め、互いの得意分野を生かし「みんなで創り上げよう」を行事共通の柱として、全校のクラスが同一の課題に取り組む。 ①伸樹祭(合唱) 物語の進行(映像)に合わせて話し合い、クラステーマになるアイテムを3つに絞り込む。 ②運動会 クラスの実態に合わせたPAを実施後ビーイングに取り組む。 ①②とも行事に向かう目的が明確となり、一致団結した中で知恵を絞りながら工夫するとともに、苦手意識のある仲間への配慮もできていた。	①9月に実施 ②10月に実施
29	県央	中複合	特別活動	防災教育 「火災から命を守る～vol.1～」	夏季休業中に消防本部の職員に来ていただき、職員対象の防災研修を行った。内容は、消火器の使い方や実際に屋内消火栓を出してみる訓練、防火扉を実際に開閉してみるといったものである。そこで得た知識を、夏季休業が終わってから生徒の防災教育で、今度は指導者として実践した。消火器には数に限りがあったため全員ではなかったが、かなり多くの生徒に体験してもらうことができ、命を守るということについて考える良い機会となった。	職員にとっても、得た知識を生徒に伝えることで、良い経験となった。
30	県央	中複合	特別活動	防災教育 「火災から命を守る～vol.2～」	夏に行った防災研修をもとに、今度は生徒と一緒にあらゆる避難経路の確認を行った。普段の学校生活の中で、生徒だけでなく職員も使用しない経路で避難した。実際に火災が起きた時の避難経路としての選択肢を増やすことができ、生徒にとって良い経験となった。	
31	県央	中2	特別活動	性教育講演会	義務教育を終える前に、性に関する向き合い方を考えるきっかけとして専門家を招き、正しい知識を身につけ、学びを深めた。 『思春期セミナー』と称して、性的少数者、二次性徴に伴う悩み、デートDV・暴力、妊娠・中絶・避妊、月経困難、性感染症予防、子宮頸がん・HPVワクチンについての内容の話だった。	婦人科医師を招聘し、講演頂いた。
32	県央	中複合	特別活動	心の健康講話	全校生徒にリモートで『生と死を考える』という演題で日本思春期学会理事の僧侶の方から講演頂いた。思春期の心の健康を中心に、自分がつらい時や自分の身近な人がつらそうな時、どのように対処することができるのかを考え、学びを深めた。	日本思春期学会理事の僧侶の方を招聘し、講演頂いた。
33	県央	中1	特別活動	防災教育とは	防災とはどういうことかを生徒一人ひとりが真剣に考え、防災教育の意義について考えた。災害発生時の本校の通学路の状態を予想して話し合いをした。実際に海老名市のハザードマップを見ながら、災害発生時にどのような行動をとるべきかを考えた。	(参考資料) 海老名市防災テキスト

34	県央	中1	特別活動	自己尊重 他者理解	ホームレス問題に詳しい講師を迎えて、「ホームレス」襲撃事件をもとに、自尊感情を高めるための講演をしていただいた。生徒は、事前に講師がかかわった動画を見て、ホームレス問題について理解した。また、当日の講演を通して、今まで知らなかったことについて思いをめぐらせ、人の在り方、自分も相手も大切にすることについて深く考えて学ぶことができていた。感想文には、人に優しくする大切さ、自分を大事にする重要性について書いている生徒が多かった。	講師は、ホームレス問題の授業づくり全国ネット代表理事・ノンフィクションライター 県央教育事務所から、DVDをお借りして事前学習を行った。
35	県央	中2	特別活動	平和理解	横浜市原爆被害者の会の方を迎えて、戦争および原爆の恐ろしさを学んだ。また、平和であることの大切さを、語りとスライド資料の写真を通して知り、命の尊さについても考えることができた。写真や映像を見ることで、戦争や原爆の恐ろしさを想像することができた。現在、ロシアとウクライナでの戦争と照らし合わせ、戦争はあってはいけないものだと多くの生徒が振り返ることができた。	講師は横浜市原爆被害者の会の方。
36	県央	中複合	特別活動	防災教育 「避難経路を考える」	地震や火災等のリスクから「いのちを守る」ため、今年度は生徒に自分事としてとらえることができるよう防災教育を行った。10月に実施した防災教育では、生徒が自分自身で避難経路を考え、周囲と意見を共有した。教員で作成した自作動画内で「いま、あなたが〇〇教室にいたとします。そのとき▲▲教室で火災が発生しました。どのように避難しますか」と課題が出され、動画内で避難経路の確認をするというものであったため、実際の校舎内での動きを考えることができた。今年度は3回の避難訓練を実施したが、生徒の感想からも「事前の授業があったので、迷いなく避難ができた」など防災教育をとおして「いのちを守る」ための意識を高めることができた。	・自作動画 ・ワークシート 教員が出演・作成したことにより、生徒もより身近に、自分事としてとらえることができた。 全学年で実施
37	県央	中3	特別活動	生命と性の健康 教育講演会	生命と性について助産師である講師を招き、体育館で第3学年を対象に講演会を行った。今後の性の自己決定と健康保持・増進のために予期せぬ妊娠や性感染症予防についての事例を学んだ。	医療系大学の教授が講師として第3学年に対して講演を行った。
38	県央	中複合	特別活動	防災訓練 「体験活動」	防火・防災について消防隊員より講話を聞き、各学年ごとに体験活動を行った。どの学年の生徒もしっかりと話を聞き、体験活動に熱心に参加した。1年生は胸骨圧迫やAEDの使用法など心肺蘇生法について、2年生は消火器の使用法について、3年生は煙体験を通して、煙の危険性や煙の中での見え方などについて、それぞれ学んだ。	消防署の職員 中学1、2、3年生
39	県央	中3	特別活動	人権教育 「なぜ命が大切なのか」	人権とは何か、命の大切さや人との関わりなどについて横浜国際人権センターの会長の講演を聞いたり、DVDを視聴したりし、その後振り返りを行った。生徒は講演会を通して人権や命、思いやりの大切さについて学んだ。	横浜国際人権センター 会長
40	県央	中1	特別活動	健康教育 「いのちの大切さ」	全学年で行っている性教育の中で、1学年では「命の大切さ」をテーマに学級活動を2時間実施した。 1時間目は、助産師による講演を中心に、男女の体の構造の違いや出産時の感動を話していただいた。2時間目は教員が、出産や育児について話し、その後赤ちゃんのだっこ体験をクラス毎に実施した。	講師は助産師と教員。 講師の話や赤ちゃん人形のだっこ体験を通して、小さな命の大切さを学ぶことができた。

41	県央	中1	特別活動	いのちの講演会 「大切な命」	助産師の講話から、母親の出産時や出産後の育児の苦勞を知るとともに、命の大切さや生命誕生の奇跡について実感させた。また、生徒自身も、自分の心と体の成長ときちんと向きあうきっかけとし、生命はかけがえのないものであり、自他を大切にすゝる気持ちを養うことができた。	講師は助産師。 プレゼンテーションソフトを使いながら、映像を交えた講話をしていただいた。
42	県央	中3	特別活動	性教育講演会 「大事にしてほしい自分の心と身体」	「大切にしてほしい自分の心と身体」というテーマで助産師に、性についての悩み、デートDV、多様な性のあり方などについて講演していただいた。事前アンケート、事後の振り返りシートの記入も行った。	講師 助産師
43	県央	中2	特別活動	性教育講演会 「生命と性の健康教育」	「生命と性の健康教育」をテーマに、予期せぬ妊娠や性感染症の予防、命の大切さなどについて講演していただいた。また、講演の中で赤ちゃんの人形を抱っこする体験をしたり、事例をもとにグループワークをしたりすることを通し、生命の尊さについて考えを深めた。	講師 大学医学部教授
44	県央	中1	特別活動	車いすバスケットボール	選手の背景や思いを聞き、命の大切さや強く生きるとはどのようなことなのかについて学んだ。実際に車いすに乗る体験を通して、選手の努力や周りの支えについても学び、人は支え合って生きていることを実感した様子だった。	
45	中	中複合	特別活動	人権メッセージ	世界人権デー（12/10）、人権週間（12/4-12/10）にあわせて行われる平塚市の「人権メッセージ」の募集を受けて、全校生徒が作品作りに取り組む。『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるようになることを目指し、人権について深く考える機会とする。	全学年 代表作を市に提出するとともに、校内にも優秀な作品を掲示する
46	中	中複合	特別活動	命の大切さを学ぶ講演会 「多様な性ってなんだろう？ ～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して」	LGBTQについて知り、様々な思いを抱いて生きている人たちがいることを理解する。そのうえで、周りの人たちとどのように接すればよいのかを考え、一人ひとりが自分も相手も大切にすることでお互いを受け止めあえる社会を一緒に作っていくことを考えさせた。	講師 認定特定非営利活動法人 ReBit LGBTアライ スターバックスコーヒー ジャパン 全学年（1年生はリモートで）
47	中	中3	特別活動	防災教育	震災をはじめとする自然災害が多い日本という国において、防災教育は、自分自身や自分の大切な人たちを守るために欠かせないことである。子どもたちは、三年間の学習において、日本特有の自然災害が起こりやすい条件や、災害から身を守るためにどのようにすればよいかなどを学び、神奈川県総合防災センターで地震の揺れや台風の強さを実際に経験することで理解を深めた。そして、「北淡震災記念公園」「人と防災未来センター」では、本物に触れることで、地震による被害がどれほど恐ろしいか、また当時の人々がどのように苦しい経験をしたか、実感することができた。子どもたちは、どの場面でも熱心に学び、学んだことを自分のものにしていった。	

48	中	中複合	特別活動	LGBTQ講演会	「互いの違いを受け止めあえる社会を目指して」をテーマとし、リモートで行った。講師の方からは、「セクシュアリティはたくさんあること」そして「セクシュアリティを尊重することはその人自身を尊重すること」といった話をしていただき、色々な考えを受け止める大切さについて理解しやすい内容となっていた。	認定特定非営利法人 ReBit ・対象学年は全校生徒
49	中	中複合	特別活動	性教育講演会	『性の健康と人間関係～自分や他者を守る～』をテーマとし、リモートで行った。講師の先生からは、「自分が嫌な時は断る勇気を持つこと、自分や相手を大切にすること、自分の身体と相手の身体を大切にすることが大切である。そして、何か困ったときには、信頼できる大人や匿名でもいいから相談機関などを使って、相談してほしいこと」をお話ししていただいた。	講師は国立群馬大学大学院 保健学研究科教授 ・対象学年は1・2年生
50	中	中1	特別活動	防災教育	地震から命を守るために、不特定多数の人が一斉にそれぞれの場所で「まず低く」「頭を守り」「動かない」などの安全確保行動を行うシェイクアウト訓練を行った。また、地震などの大規模な災害により甚大な被害が発生した場合は、避難所が設置される。その避難所についての知識を身に付け、中学生で生徒たちは避難所でどのようなことができるのかを考えた。この授業を通して「困っている人を助ける」「小さい子の面倒をみる」「周りの人に迷惑がかからないように生活する」など、自分たちなりにできることを考えた。	学級担任が担当 ワークシートを使用
51	中	中複合	特別活動	地震からいのちを守る「過去の大地震から初期行動を学ぶ」	日本で起きた大きな地震を参考に、学校において、それぞれの場所ごとに自分の身を守る方法を考えさせ、その後、シェイクアウト訓練を実施し、地震発生初期の行動を実践し、正しい行動で自らの命を守れるようにする。	クロームブックで「地震災害の確認」「シェイクアウト訓練の意義」を学び「地震から自分の身を守ろう」の教材で確認した。
52	中	中複合	特別活動	生徒が中心となりいじめ0を目指す	生徒会主催で、「いじめ0の学校づくり」を目指し、様々なエクササイズやプログラムを通して、全校生徒がいじめについて考える。その後、学校・学年・学級で「いじめ0の学校づくり」について、プログラムを通して学んだことを出来ることから取り組んでいく。	帝京平成大学の先生に監修とご指導をいただきながら、生徒会本部の原稿、資料の作成を行う。集会当日も生徒の意見を基に、大切なこととお話しいただく
53	県西	中複合	特別活動	非行防止講演会	生徒の日常生活の中から、身近な事例を取り上げて、それが犯罪であることや、もっと大きな犯罪につながる危険性があることを学んだ。また、SNS上のトラブルや、学校のタブレット学習で他人のIDやパスワードで「なりすます」ことなど、学習形態や社会の変化とともに新しく起こるようになった問題を加えて教えていただいた。犯罪から遠いところに身を置くことが、命を守るために最も大切なことだと学んだ。	講師 松田警察署スクールサポーター 夏季休業中に生徒に気をつけてほしいことを中心に講演を行った。

54	県西	中複合	特別活動	防災教育 「津波から命を守る」	本校は、津波災害危険区域に該当しており、大地震発生時の基本行動の徹底が求められるため、無告知での訓練を実施した。避難経路を確認し、避難をしたあとの過ごし方などを再度確認した。その後、講師の方より実際の経験を聞き、1秒でも早く逃げることの大切さを改めて感じた。また、ヘルメットの正しい装着方法を学び、中学生として自助だけでなく共助が求められることに気が付き、日常の訓練の大切さについて考えた。	講師 小田原市役所防災課
55	県西	中2	特別活動	命の大切さ	自他の生命の大切さと、性を尊重していける生徒を育成することを目的に、小田原市立病院の助産師さんより講話をいただいた。	対象学年：中2 講師：小田原市立病院 助産師
56	県西	中複合	特別活動	防犯訓練	危険を予測し、起こりうる犯罪から身を守る方法などを考えると同時に、犯罪に直面した場面を想定し、危険を回避する行動を実践できることを目的とした。警察官の指導の下、不審者を生徒に接触させない訓練を実施した。訓練後の講評では、警察官から実際に起きた事件の例などを聞くことができた。	講師は、小田原警察署 生活安全課の職員と学区 内駐在所の職員 全学年一斉実施
57	県西	中複合	特別活動	人権教育「病気に基づく偏見・差別の防止・解消」	偏見・差別の防止・解消は、人権課題の中でも特に大きなものであり、現在も人権侵害により命を落とす人は少なくない。近年、新型コロナウイルス感染者に対して、いわれなき偏見・差別が全国的に見られたこともあり、厚労省作成の中学生向け右記パンフレット配布に当たり指導を行った。人権教育担当者による同一の指導案を用いて、1・2年生5クラスの生徒を対象として各学級担任より指導した。	中2・中1対象で実施 参照資料『ハンセン病の 向こう側』（厚生労働 省)
58	県西	中複合	特別活動	教育講演会 「被爆体験を通してみなさんに伝えたいこと」	町主催の教育月間事業教育講演会として「神奈川県原爆被害者の会」の方二名にご来校いただき、講演会を開催した。全校生徒が一堂に会し、熱心に話に耳を傾けていた。当時の悲惨な様子や、その後の苦しみ、現在に至る紆余曲折をうかがい、その事実を知る人が絶えてしまわないように、語り継いでいくことの大切さについて考える生徒が多かった。	神奈川県原爆被害者の 会副会長
59	県西	中2	特別活動	性教育	1年次に行った性教育講演会をもとに発展させ。今年度、「避妊について」、「胎児について」、「性について」考える授業を行った。今回の授業の前に、アンケートを取り、アンケートの回答もふまえ、保健の授業で扱う副教材も交えながら実施した。生徒たちは、自分事として捉え、実際、性に関する悩みをもった友だちに対して、どのような声かけをするかなど、具体的に考えた。	指導者：町保健センター 職員（助産師2名） 参考教材：保健の授業で 使用している副教材